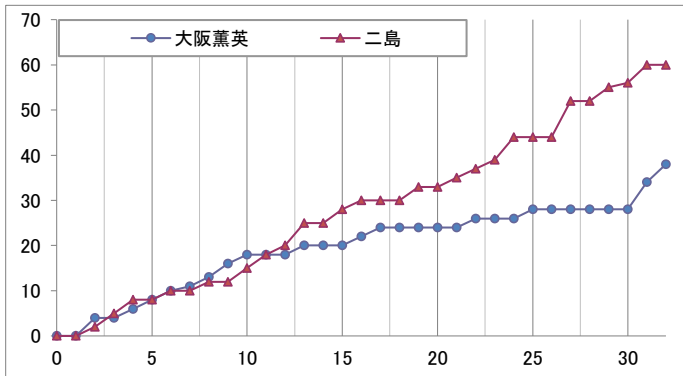




大会名	平成28年度全国中学校体育大会 第46回全国中学校バスケットボール大会							
会場	大野市エキサイト広場体育館							
日時	2016年8月24日(水) 10:00							
コート	OAコート 第1試合							
カテゴリー	女 決勝トーナメント1回戦							
主審	田邊 真由美							
副審	豆塚 宣男							
TEAM A	TEAM B							
大阪薫英 (大阪)	<table border="0"> <tr> <td>13 1st 12</td> <td rowspan="4">60</td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="4">二島 (福岡)</td> </tr> <tr> <td>9 2nd 18</td> </tr> <tr> <td>4 3rd 14</td> </tr> <tr> <td>12 4th 16</td> </tr> </table>	13 1st 12	60	○	二島 (福岡)	9 2nd 18	4 3rd 14	12 4th 16
13 1st 12	60	○				二島 (福岡)		
9 2nd 18								
4 3rd 14								
12 4th 16								

得点経過



BOXスコア

TEAM A		大阪薫英						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	永野 真光 (CAP)	×	4	0	2	0	1	
5	桑原 友花	/	0	0	0	0	1	
6	柁宜 菜々葉	×	10	2	1	2	3	
7	妹尾 葵	×	0	0	0	0	4	
8	吉村 朋子	×	6	0	2	2	0	
9	上田 真由	/	5	0	2	1	2	
10	東根 いち乃	/	0	0	0	0	0	
11	崎生 菜花	DNF	0	0	0	0	0	
12	青木 遥	DNF	0	0	0	0	0	
13	松山 紗	DNF	0	0	0	0	0	
14	佐藤 瑠菜	/	0	0	0	0	0	
15	前田 芽衣	×	13	0	5	3	1	
16	和田 栞奈	DNF	0	0	0	0	0	
17	辻畑 有咲	DNF	0	0	0	0	0	
18	西村 香凜	/	0	0	0	0	2	
コーチ	市川 藤乃							
合計			38	2	12	8	14	

TEAM B		二島						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	早川 千華	DNF	0	0	0	0	0	
5	徳永 夏	DNF	0	0	0	0	0	
6	池下 陽菜	/	2	0	1	0	1	
7	中村 理瑚	/	0	0	0	0	1	
8	小柳 亜結	×	9	0	4	1	2	
9	首藤 祐希	×	15	1	5	2	1	
10	吉村 琉季	/	0	0	0	0	0	
11	野満 咲良	DNF	0	0	0	0	0	
12	梶原 早智	DNF	0	0	0	0	0	
13	川口 結菜	/	0	0	0	0	0	
14	中嶋 ゆめ (CAP)	×	18	5	1	1	1	
15	齋藤 風香	/	0	0	0	0	0	
16	中園 陽菜乃	×	5	0	2	1	0	
17	池松 美波	×	11	0	4	3	3	
18	浦野 来望	/	0	0	0	0	0	
コーチ	山崎 修							
合計			60	6	17	8	9	

×…スターター /…出場 DNF…未出場 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

近畿代表予選リーグ1位大阪薫英と九州代表予選リーグ2位二島の対戦。両チームマンツーマンDefでスタート。二島#8のハイポストからのシュートで先制。残り4分で大阪薫英の連続パスミスから二島が得点に結びつけ逆転に成功するが、大阪薫英#9がリバウンドシュートを決めて再逆転。大阪薫英13—12二島で1Q終了。2Q、大阪薫英#6の3Pで始まったが、二島も#14が3Pを入れ返す。二島の巧みな個人技に対して、大阪薫英はスクリーンを使った組織的Offで対抗し、開始3分で18—18の同点となる。その後、二島は#14の3Pで突き放しにかかる。大阪薫英も食い下がるが、攻撃のリズムが悪くミスを重ねてしまう。残り1分、二島#14がこのQ3本目の3Pを決め、28—20で二島がリードする。終了間際に大阪薫英#9がポストプレーを決めて点差を詰めるが、二島#17がドライブで即座に得点し、二島30—22大阪薫英で2Q終了。

3Q、互いにハーフコートマンツーマンDefでスタート。開始直後、大阪薫英#15のシュートが決まり追い上げるが、二島#9、#17のドライブで35—24の11点差がつく。その後も#17のステップイン、#8のバスケットカウントとフリースロー、終了間際の#8のシュートで、二島が44—26と大きく引き離して3Q終了。4Q、大阪薫英が必死に食い下がるが、焦りからパスミス、シュートミスが多くなる。逆に二島は波に乗り得点を重ねる。残り3分、二島#14の長い距離からの3Pも決まり55—28と更にリードを広げる。最終的には二島60—38大阪薫英で終了。高さで勝る二島が大阪薫英の機動力を封じた形となった。敗れはしたが、大阪薫英の一生懸命にボールを追いかける姿が印象に残る好ゲームであった。